

この号は「ドイツ特集」の趣があるのだが、それは後述するとして、先ず ALPO のニュースが *Martian Chronicle* から抜粋されている: JBs 氏が Recorder から retire したこと、一月の Kitt Peak の T CLANCY 氏の電波観測による黄雲騒ぎを派克 (DPk) 氏達が白昼の写真で否定したこと (#171 既報) 等が挙げられている。

LtE では Gianni QUARRA 氏の前年の九月 (27 Sept 1995) に Pic-du-Midi で撮った土星の写真が送られてきている他、Mike MATTEI 氏が #171 の記念号の表紙を転写したマウス・パッドを送ってくれている。David GRAHAM 氏の LtE では前年の八月に Lick (Mt Hamilton) に一週間、T DOBBINS、W SHEEHAN、S O'MEARA と一緒に滞在し、土星の環の消失だけでなく木星や天王星、海王星を観察した咄が書かれている。土星の白斑についても詳しいが、GRAHAM 氏は既に土星課長である。前任の A HEATH 氏も LtE を寄せられ、辞めてからもお元気で百武彗星に関心がある。Hyakutaké については、松本直弥氏、村上昌己氏なども触れている。福井の天文臺でも 23Mar に核と不思議な吹き出しを見ていることがメモしてある (Ns 氏の星野写真もある)。

德國 Würzburg の Ch SCHAMBECK (CSc) 氏も Hyakutaké に触れているが、これは德國特集の第一段で、彼は "I was surprised about hearing from you that you live in a Japanese sister City of Würzburg. You cited Max Dauthendey who was born in Würzburg and wrote *"Die acht Gesichter am Biwasee"* just the lake where you come from " と述べる。實際、琵琶湖八景を擁する大津 Otsu は Würzburg の姉妹都市なので、解説に数頁を割いた。彼は續けて "We celebrate this year the 200th birthday of another man who merits to remember." この偉人も Würzburg 生まれで、その名も Philipp Franz von SIEBOLD。CSc 氏も醫學畑なので、こちらに詳しく、長崎についても觸れている。私が長崎のシーボルト館を訪れるのは八年後である。1996 年には日獨兩國で同じ圖柄の切手が出た。Würzburg にもシーボルト博物館が出来ている。尚、CSc 氏は 1988 年の接近時のドイツのコーディネーターであった。

ドイツ特集第二段は Berlin のキルヘルム・フェールステル天文臺 (WFS) の歴史と現状の紹介で、W MEYER 氏の資料による。ここは AKP と関係があったのだが、後者はその後消息が知れない。

ドイツ特集第三段は最後尾の『夜毎餘言』LII で、私の好きな The Dave Brubeck Quartet の "Brandenburg Gate, Revisted" (1963 年) について述べたものである。主曲はサンディエゴ交響樂團をバックに甘分續く。古い LP だから久しく聴いていないが、音色は浮かぶ。

南 政次 (Mn)